

七早稿

オミクロン

自宅経過観察を増やす

県医師会方針 600人対応可能

県内で新型コロナウイルス感染者が急拡大する中、県医師会は十四日、葵農株

この傾向にあるため、臨床での経過観察を増やしていくべきを示した。宿泊療養施設の病床数も考慮しての方針。現状では六百人の経過観察が可能という。=新規型コロナ関連③④⑤⑥⑦⑧面

(長谷川寛之、玉田能成)

福井市の県医師会館で起
端癡狂騒ぎが記者紙見せ

開
じ
た

血管での経過観察に至る

トセンターや保健師らが
田二回、テレビ電話など
連絡を取って経過観察を
する。症状が悪化した場合は

感染者の急増によって鮮
人たてて絶滅觀察となつて
いる。

卷之三

自転車の経過観察に至る

トセンターや保健師らが
田二回、テレビ電話など
連絡を取って経過観察を
する。症状が悪化した場合は

人が自宅経過観察となつ
いる。

九

端末機④=14日、梅井市での医師会館(山田謙撮影)

治療を受けるため「血中療養ゼロ」は維持される。患者には陽性者・接触者サポー

入院コートディネートセンタ
ーに相談し、医師の判断で
入院となる。すでに開始し
ており、十四日現在で十二

施設の病床逼迫が予想される。池端会長は「いっぽくなつたら少し白毛経過察を増やしてこ。大

ク観いれ

「感染状況をみた上で、平均宿泊日数を縮めた上で、宿泊基準を見直す」と

七

無症状者を対象とした医療機関や薬局などに受け付けて



無症状者を対象とした医療機関や薬局などで受けられる無料の検査について、池端会長は「発熱などの症状がある人も検査に来て、その後に陽性が判明するケースがある」と指摘。医療従事者が感染すると医療機関の閉鎖にもつながりかねず、「症状がある人は発熱外來へ」と訴えた。

県民にワクチンを接種した後に感染するブレーカスルー感染対策として、三回目の接種、「早期受診・早期診断」、マスク着用などの予防策の徹底を呼び掛けた。